



# 上浮穴高等学校 人権委員会 実践報告

---

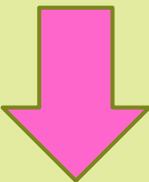
愛媛県立上浮穴高等学校人権委員  
3年 芦澤駿介 中村 縁 福田晴真  
2年 伊藤沙奈

# 発表内容

1. 6年度の課題・反省点のその後
2. 人権フィールドワーク参加報告  
—大島愛生園を訪問して—
3. 全校人権・同和教育学習会の報告  
—拉致被害啓発動画「めぐみ」視聴—

1 昨年度は・・・・・

校内の活動、校外での活動、調査などいろいろ、  
実施したり参加したりしているが、私たちの  
人権意識は高まっているのか？



まず、人権委員で見直したり考えたり  
してみよう。

さまざまな活動の課題点を挙げ、

改善策を考えました。（一部紹介）

# 人権HR活動における課題

## 全体

- ▶ 学習したことが生かせていない。
- ▶ 卒業するまでの9回では時間が足りない。
- ▶ 他の探究活動の活発化やバスの時間の制限などで、放課等の準備が難しい。
- ▶ 入学から卒業するまでの間に、どれくらい人権意識が高まったか見えにくい。

## HR活動における課題への改善策

- ▶人権・同和教育HRの回数を増やせなくとも、事前・事後学習を充実させる  
→先生も自分たちも忙しすぎて、時間を上手く使えない。

## HR活動における課題への改善策

- ▶人権委員がもっとクラスで活動する。  
まず僕たちが勉強する、  
準備・先生と担当班等との連携。  
→先生方と打ち合わせる時間がなかなか取れない。自分たちも積極的にできなかった。

## HR活動における課題への改善策

- ▶ 3年の2月にも意識調査をするなど、過去の学習を振り返る。  
→ 3年生がいる1月中にするのが望ましく、時間がとりにくい。今年度の実施が目標

「忙しい」を言い訳に  
しないで、

---

どうすればできるかを  
考えなくてはいけない。

「人権デー」とは・・・

月1回 SHRの時間に人権に関する

資料や文章を読み、感想を書いて提出

する、という取組の日

# 人権デー（令和6年度）

回数	学習内容
第1回	生徒人権作文 これから幸せのために
第2回	ヤングケアラーについて
第3回	共生社会の実現のために 「障害者差別解消法」
第4回	「ハンセン病」の歴史と差別 フィールドワーク参加
第5回	生徒人権作文 「わたしとみんなのLGBTQ」
第6回	立ち位置が変われば風景が変わる 「差別はたいてい悪意のない人がする」

## 人権デーにおける課題

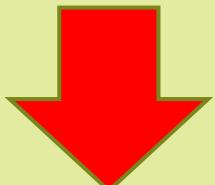
- ▶ 感想を書く時間が少ない。
- ▶ わからないことについて、その場で調べたり質問したりできない。
- ▶ 興味が持てないと、真剣に聞くことができない。

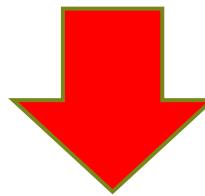
## 人権デーにおける課題

- ▶ 感想の共有ができない。言い合う時間が欲しい。
- ▶ 保護者からの感想が少ない。(過去)  
HPを見てもらえているかわからない。  
否定的な意見に対応しにくい。

# 人権デーにおける課題への改善策

- ▶読む時間を少なくして、感想に時間をかける。  
(内容・量のスリム化)
- ▶感想をまとめてみんなに配るようにする。
- ▶ネット上に保護者が感想提出BOXなどを作る。
- ▶人権デーで、どのような内容を取り上げてほしいかリサーチする。





## 「人権デー」 자체を見直す

- SHRの時間が以前より短くなつたので、読み上げや感想の記入は難しい。
- おたより式のものは学期に 1 回HPへのUPのみにする。
- 「人権に関する活動」を実施する日をすべて「人権デー」とする。

これは取組の縮小？後退？

新たにできることを模索中です。

# 校外活動における反省

- 1 みなら特別支援学校高等部  
陶芸班との交流学習
- 2 合同フィールドワーク参加
- 3 久万町人権啓発フェスティバル参加

# みなら特別支援学校との交流

## 陶芸体験



## 文化祭で販売

## みなら特別支援学校との交流学習における課題

- 楽しいことをしに行っているだけで終わっている感じ。ハンデについてもよく知らないまま。人権意識の高揚につながっているか？
- 日程や時間の制限があり、事前や事後の生徒同士の交流は難しい。

## 交流学習における課題への改善策

- 先に、学校紹介ボード、自己紹介カードなどを先方に送り、話題づくりに生かす。
  - 陶芸班のことについてだけでなく、みなら特別支援学校について事前学習をしてから行く。
- ※ プライバシーの保護などに注意が必要。  
先生に相談・お願いしながら慎重にする

本年度・・・

残念ながら先方の陶芸担当者が転勤となり、この交流は中止。

来年度は、陶器を預かっての販売だけでもできないか打診中。

昨年度の  
反省事項のその後に  
ついては

終わり

## 2 人権フィールドワークへの参加

国立療養所 長島愛生園（岡山県）訪問

令和7年7月31日（木）

松山東	松山南	松山北	松山中央
松山工業	松山商業	松山西	
上浮穴（生徒4名参加）			8校参加

しばらく写真をご覧ください。



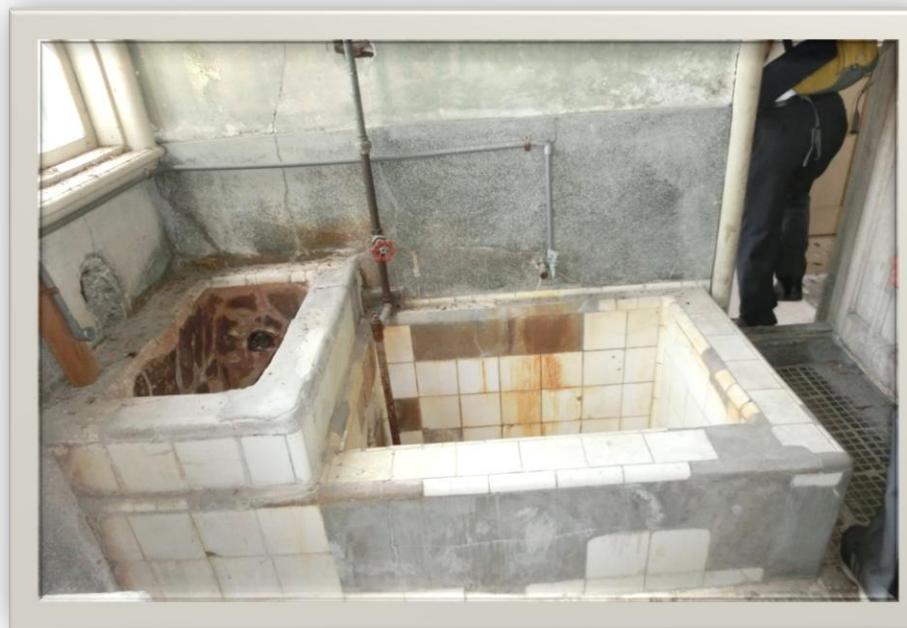
←島内のジオラマ



## 研修会（歴史館見学）



痛い、熱い、冷たいの感覚がなくなったり、体の一部が変形する後遺症が残るため、様々な道具に工夫が施されている。



愛生園については、実際に訪問したり  
知っていたりする人も多いと思いますが、  
感想を少し述べます。

# 『邑久長島大橋』

「人間回復の橋」



昭和63年、入所者たちの強い要望で**16年の年月をかけ**開通した。これによりハンセン病療養所と**社会を一本の道でつなぐ**ことになり、「人間回復の橋」と呼ばれる。

## 感想

わずかな距離なのに、この橋ができるまで、どんな思いで暮らしていたのだろう。この橋は希望の橋だったのだろう。

しかし、そもそもこの橋はいらない、島に閉じ込める必要はなかった。

# 現地研修

島内に残る施設を見学する。



入所者には、目の見えない  
人が多いため、交差点には  
**スピーカー**が設置され、  
絶えず音が流れている。



## 感想

管理するためかもしれないが、いろいろな工夫がされていたのだな。

病気のせいで目も見えなくなるなんてどんなに不安だっただろう。

# 現地研修

## 《収容桟橋》



入所者はここから上陸し、  
ほとんどの人が一生ここから出ることはなかった。

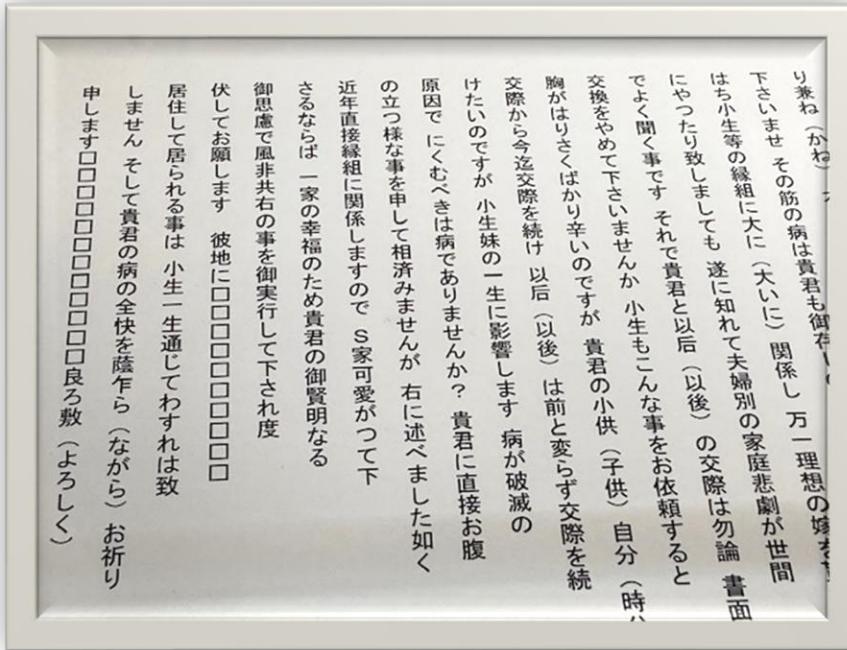
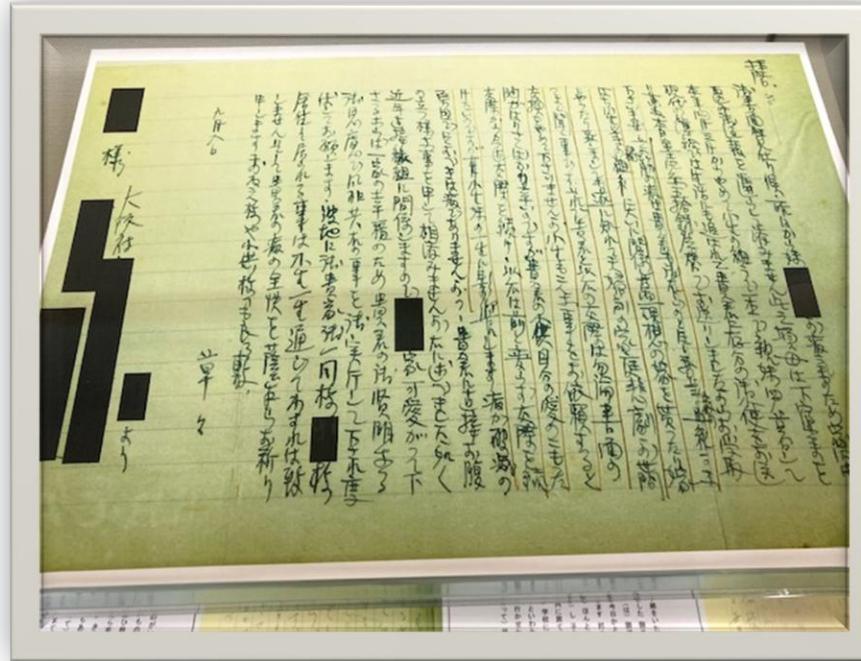
## 感想

訳も分からずこの桟橋におろされた子供もいたという。

一生出られないと分かって絶望し、命を絶った人もいる。出られても戸籍を捨てたりして世間と隔絶されている。

人権の二重侵害だ。

## 現地研修



# 《家族からの絶縁状》

家族のために、もう二度と帰ってこないでくれ手紙もやめて  
ほしい、という手紙。

逆に、一家の父親が亡くなつたので、一時的にでも子供を帰らせてほしいという手紙などもある。

## 感想

今回の研修で初めて見た。こんなに辛くて悲しい手紙はないと思う。

家族が患者を見捨てるようにさせたのは、当時の国の方針のせいでもある。家族も被害者だと思う。

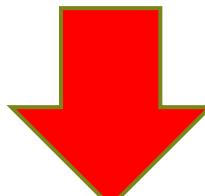
## 学芸員の講話

- ▶入所者の中には、ここ数年にわたった新型コロナウイルスの報道を見て、「**昔も今も差別はあり、何も変わっていない**」と落胆する方もいた。
- ▶今でも本名を名乗れない、遺骨を引き取りに来ない等の現実がある。

# 新たな疑問

## ▶初代園長 光田 健輔医師の功罪について

令和6年度に他校生が質問し、今年度も気になっていた。初代園長のことを患者はどう思っていたのか。

光田医師とは 

日本の病理学者、皮膚科医。生涯をハンセン病の撲滅に捧げ、国立長島愛生園初代長等を歴任した。生前は「救癩の父」と崇められ、文化勲章やダミアン・ダットン（患者のために働いた神父）賞を受けた。

その一方で、患者の絶対隔離政策を推進する「癩予防法」改正、無癩県運動や「らい予防法」制定の中心人物であり、日本の対ハンセン病政策の明暗を象徴する人物ともされる【Wikipedia】

## 学芸員の木下さんに聞きました

- ▶ 「結果的には先生（光田医師）のおかげで病気がよくなつた、衣食住の心配をせずに済んだ。感謝している。」という人と、「先生のせいで、故郷へ帰れなくなつた。人生を奪われた。」という人がいる。（一部）

このことについて調べてみると、

藤野豊（歴史学者）は「らいは恐ろしい伝染病であり、らい患者が存在することは文明国の恥である」という光田独自の考えがあったからではないかと論じている。

これに対して、光田に師事した 医師犀川一夫は、光田が

「たとえ病原菌が無くなっても、世間の差別の目  
のせいで元患者が社会復帰するのは難しい。  
だからあえて隔離するのだ」と主張した事例を紹介し、

当時の患者を取り巻く状況においてはそれなり  
の合理的な理由があったのではと述べている。

学習が進むと、

[徹底した隔離は患者を守るためにあった] という考え方があったことも分かったし、  
[そのせいで人生を奪われた人がいるという人がいる] ことも分かった。

ただ、「感謝している」という人もいることに正直驚いた。

## 結論

自分たちが光田医師のしたことの是非を問うのは難しい。

しかし、ハンセン病のことを理解することと、差別をなくすことはできる。

# 最近こんなニュースが。 10月6日放送



≡ YouTube



RSKイブニングニュース  
チャンネル登録者数 4.75万人

国立ハンセン病療養所“長島愛生園”の懲罰施設「監房」掘り起こしに  
向けた工事始まる【岡山】



## 長島愛生園 “監房掘り起こし”

人権侵害の歴史

着工

監房

1930年(昭和5年)の開園と同時に建設  
逃走しようとした人などが収監される



## 長島愛生園 “監房掘り起こし”

人権侵害の歴史

着工

監房

1930年(昭和5年)の開園と同時に建設  
逃走しようとした人などが収監される

# 長島愛生園 “監房掘り起こし”

人権侵害の歴史

着工

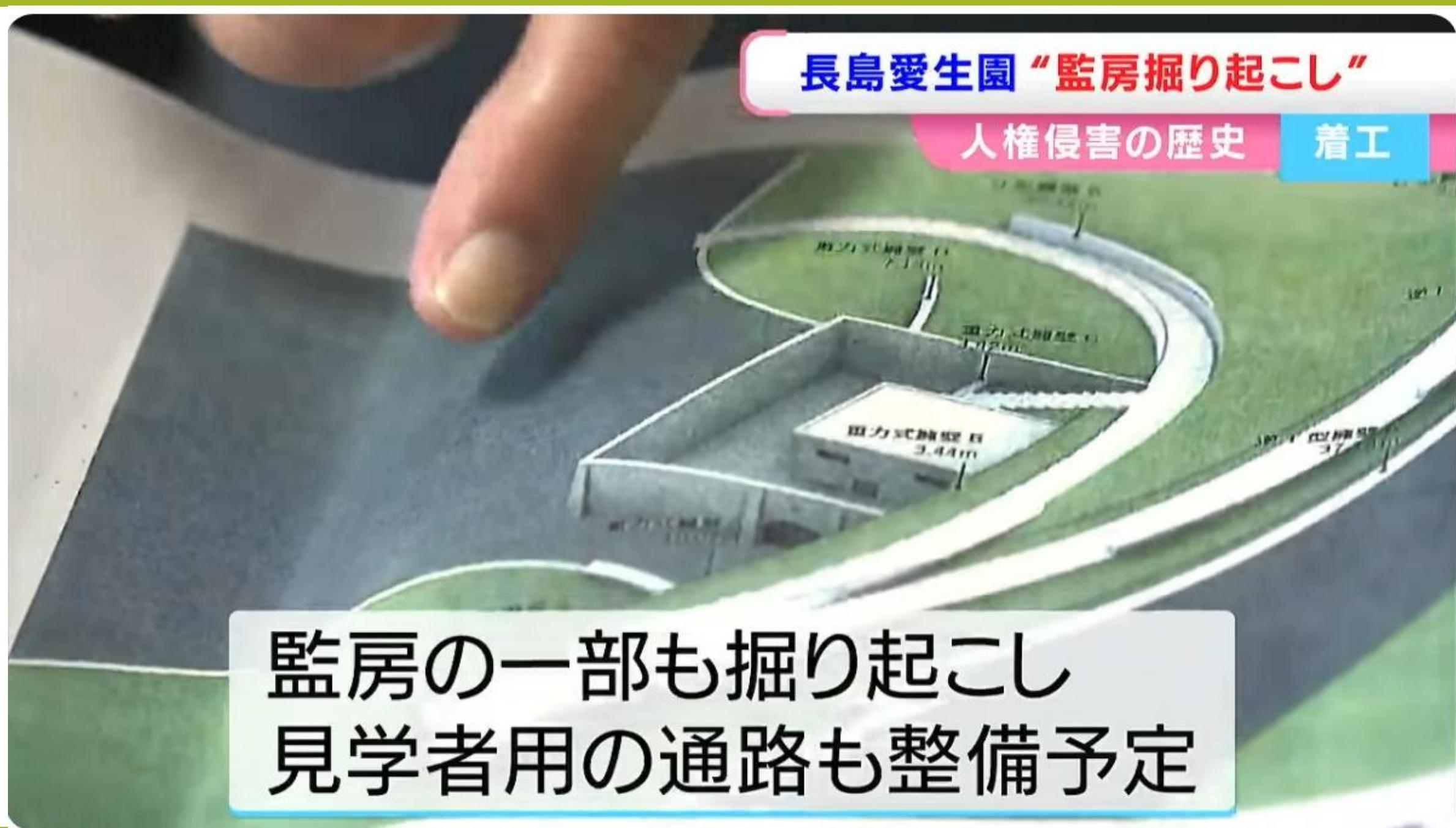
監房

1953年(昭和28年)に廃止  
現在は西側の外壁のみが見える状況

## 長島愛生園“監房掘り起こし”

人権侵害の歴史

着工



監房の一部も掘り起こし  
見学者用の通路も整備予定

## 長島愛生園 “監房掘り起こし”

人権侵害の歴史

着工

中尾伸治 会長

療養所の中に監獄のような部屋が  
あったということ

長島愛生園 入所者自治会



## 長島愛生園 “監房掘り起こし”

人権侵害の歴史 着工

工事

来年中に完了予定  
→8つあった独房のうち1つがあらわに

# フィールドワーク参加報告

## —ハンセン病について学ぶ—

### 終わり

### 3 拉致問題啓発動画 「めぐみ」を視聴して

※小学校や中学校で  
見たことがある人が  
4割近くいる



感想を聞くと・・・

「拉致はひどい、悪いこと。かわいそう。」

「小泉首相のおかげで戻ってきた？」という

認識

これではいけない！

## 《事前学習》

- ▶そもそもなぜ日本人が拉致されるのか、  
拉致の目的は？
- ▶どこで拉致されたのか。
- ▶「拉致」が明るみになつたきっかけ  
—1987年 大韓航空機爆破事件—

## 《理解したこと》

- ▶ 「拉致」も「飛行機爆破事件」も、北朝鮮によるテロ行為であり、日本人の人権や日本や  
欧州の国家主権を無視した重大な人権侵害である。
- ▶ 日本は、北朝鮮との国交回復に力を入れていたという事情があった。
- ▶ 認定されている以上の拉致が考えられ、ほとんどの人が帰国できていない。 など

## 《視聴後の感想》 抜粋

- ▶ 初めて見た。わかりやすい内容だった。普通の生活が一瞬で消えることの恐ろしさを感じた。めぐみさんは、今頃何をしているのだろう。
- ▶ 拉致被害は断片的に言葉でしか理解できなかつたが、今回の視聴でどんなにひどい人権侵害かよくわかった。

- ▶ 見るのは3回目だが、何度見ても涙が出る。授業中の事前学習のおかげで、今までより、もっと考えながら見ることができた。
- ▶ 遠い昔の出来事と思っていたが、今でも、いつどこで自分たちが襲われるかもしれないと思うようになった。

- ▶ 人権の重さについて深く考えさせられた。その人の権利も、周りの人の権利や幸せも奪う拉致は許せない。
- ▶ 差別や暴力、国家間の問題などで犠牲になる人がいてはいけないという強いメッセージを感じた。
- ▶ 僕たちには人権を守る社会を作る責任がある。

- ▶ 「少人数の日本人の命より、北朝鮮との関係の方が大事」と国が言ったことはショックだった。
- ▶ 自分だったら、自分の家族だったら、と考える必要がある。
- ▶ 救出のためには、関心を持ち続けることが大事だとよく分かった。

- ▶ とても遅くはなったけど、粘り強く北朝鮮と交渉し戦い続けてきたことはよかったです。
- ▶ 私たちが生まれる前のことがまだ解決していないことに驚く。
- ▶ 拉致被害者も家族も、飛行機爆破事故の犠牲者も命令を受けた工作員も、みんな犠牲者ではないか。

- ▶ 被害者家族が高齢になって、どんどん亡くなられている。  
その人達が再会できないどころか、私たちが生きている間に解決できるのだろうか。家族の方の辛さを考えると本当に悲しい。

最後に、被害者の方、被害者家族の方、の無念を思い、また、僕たちが関心を持ち続けるために、

横田めぐみさんのお母さん、早紀江さんのコメントと、当時皇后であられた上皇后さまのお言葉を紹介して発表を終わります。

## 横田早紀江さんのコメント

『精も根も尽き果てたという感じで、年もいって  
きて、本当にもう会えないのかなと思う時も  
あるし、だんだん絶対弱っていくと思う』

## 横田早紀江さんのコメント

『本当に嫌な人生です。二度と生まれて  
きたくないというくらい 嫌な人生ですね、  
わたしは』

# 美智子皇后陛下（当時）の お言葉

悲しい出来事についても  
触れなければなりません。

小泉総理の北朝鮮訪問により  
一連の拉致事件に関し、  
初めて真相の一部が報道され、  
驚きと悲しみと共に  
無念さを覚えます。

何故私たち皆が、  
自分たち共同社会の出来事として、  
この人々の不在を  
もつと強く意識し続けることが  
できなかつたのかとの思いを  
消すことが出来ません。

今回の帰国者と家族との再会の喜びを思うにつけ、  
今回帰ることのできなかつた人々の  
家族の氣持ちは察するにあまり  
あり、  
その一入(ひとしお)の淋しさを思  
います。

二〇〇一 年 十月二十日

美智子皇后陛下のお誕生日に

当たつての

宮内庁記者会での質問への御答  
(おこたえ)

ご清聴  
ありがとうございました